# 奈良・平城京跡左京一条三坊十三坪

1　所在地　奈良市法華寺町

2　調査期間　二〇〇〇年（平12）二月～三月

3　発掘機関　奈良市教育委員会

4　調査担当者　松浦五輪美

5　遺跡の種類　都城跡

6　遺跡の年代　八世紀～一〇世紀

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は市立一条高校敷地内で、平城京左京一条三坊十三坪の東端にあたり、五三一㎡を調査した。この付近は、南に石上宅嗣の「芸亭」推定地をひかえ、奈良時代には有力な貴族階層によって占地されていたと推定される場所である。一条高校敷地内では、これまで五回の調査が行なわれており、十三坪とその北側の十四坪が一つの宅地として利用されていたと推測されている。また検出した建物の規模も、居住者が高い階層にあったことを裏付けている。

今回の調査では、掘立柱建物五棟、掘立柱塀六条、井戸一基、石敷などを検出した。遺構の多くは九世紀代のものと考えられ、平安京遷都後も、この付近には建物が建てられていたようである。

木簡は、発掘区北東隅で検出した大型の井戸から出土した。掘形は現代の建物基礎によって一部破壊されているが、径六m以上に復原できる。井戸枠は内法が一辺二・二三mの井籠横板組みで、深さは約四・六m、一六段分が残存していた。このうち上から三段目までは、断面が扁平な五角形の板材で、建築部材を転用したものと考えられ、一度井戸の改修が行なわれたものと思われる。また井戸の周囲には、約七m四方の範囲で石敷が広がっていたが、少なくとも井戸の改修時には掘形によって壊されており、その時点ではすでに石敷は埋まっていたものと考えられる。したがって当初の井戸に伴うものである可能性があるが、確証はない。

井戸枠内からは多量の遺物が出土しており、土器から判断すると九世紀の中頃から一〇世紀にかけて、徐々に埋まったものと考えられる。井戸の構築時期の手がかりとなる資料は少ないが、掘形や石敷の遺物から九世紀初頭と考えられる。出土文字資料としては、人形・木簡・墨書土器のほか、「嘉祥元年」（八四八）の墨書のある石が出土した。

## 8　木簡の釈文・内容

(1)　・「〼七月□□□□□□□□〔八月カ〕□□
九月□□□卯□□□〼十月□□□
十一月□□□□□□□十二月□□□□□〼
木生火々生土々生金々生水々生木々剋
土々剋水々剋火々剋金々剋木□□
□□〼□〼
□□□□
〼
〼」

・「三□□〼己未人　□　□　□
□□□□□□□
狸□鯉鯉□三　　　□□□
狎　鬼　　□〔年カ〕□　　□□□□
□□□〼□□□」
130×(117)×7　081

(2)　人田真稲麻呂□□返〔奉カ〕□小開□如件　并氏吉小口与□〔大カ〕□開□　091

(3)　「伊勢竹河」　148×19.5×1.5　061　表No6

(4)　「伊勢宗子」　111×19×2.5　061　表No31

(5)　「秦奈良子　又名粟日」　104×23×5　061　表No33

(6)　「伴廣冨」　95×21×1　061　表No62

(1)はやや厚めの板の表裏に文字を書くが、右辺と下部の大部分を欠く。表は七月から十二月までの月を列記し、その後に五行相生説・五行相剋説を書く。暦に関するものであろうか。裏面は周囲に沿って、「鬼」や動物名を書き、また角から斜めに「己未人」などと書くが、意味は不明。井戸枠の上から一一段目から出土。

(2)は、長さ（四四二）㎜幅（一六）㎜という長大な削屑である。数人の人名が記された文書木簡で、「小開□」と「大開□」が対になるとみられるが、性格は不明。上から一五段目から出土。

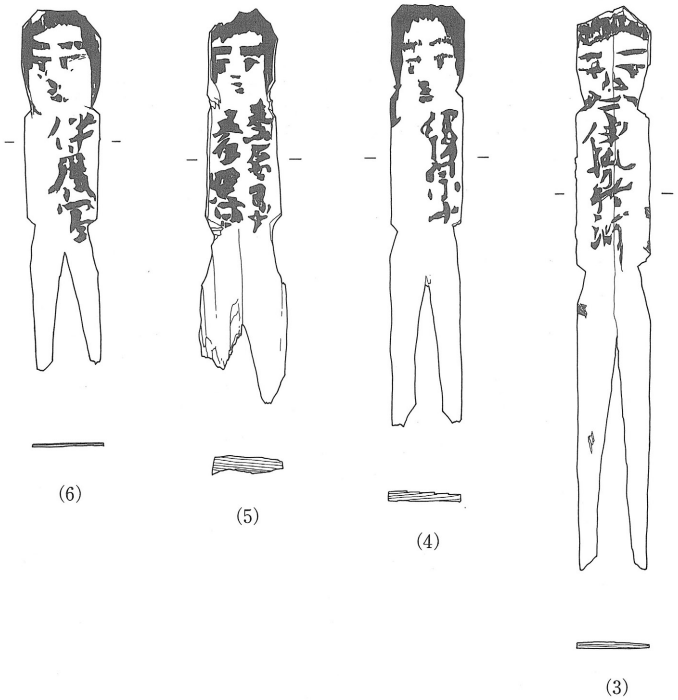
(3)～(6)は墨書のある人形。人形は、上から一一段目の埋土中から

（表）

（裏）

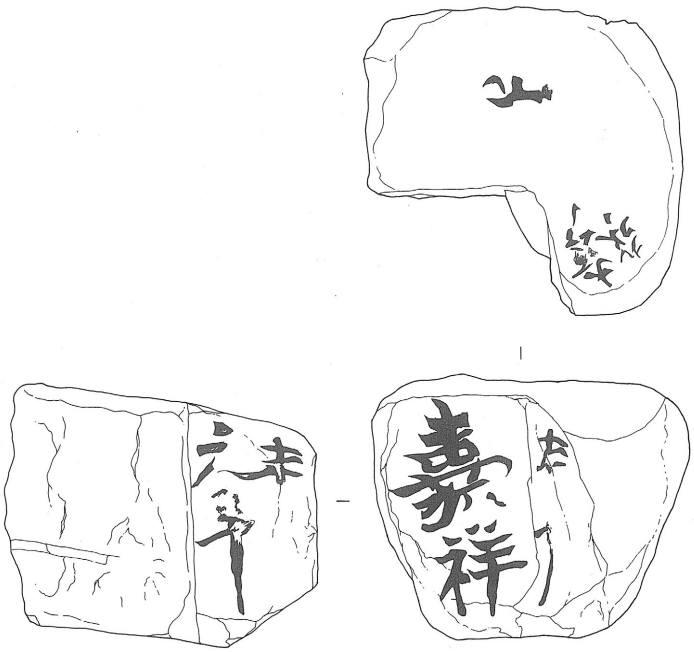
(1) 赤外線画像

(2)




出土した五一枚以上と、同層出土の緑釉壺の中に桃核や釘などとともに入れられていた四三枚以上とがあり、確認できる物はすべて胴部に人名が記されているが（表参照）、同一の名前を書いたものが多いため、この欄には各人一点のみをあげた。

(3)は埋土中から出土した人形で、確認できる人名はすべて伊勢竹河である。これらは七枚前後ずつ一くくりに縛られ、一括して捨てられた状態で出土した。束がほどけていないものは、そのままの状態で保管しているため未確認であるが、同じ墨書があると考えられる。形態は基本的に圭頭状で、首と腰及び足を切り欠きで表現しており、顔は髭を生やした成人男子を表している。形と大きさにやや



（墨書石）

井戸内出土の墨書人形

| No | 釈文 | 長×幅×厚（㎜） | 備考 |
|---|---|---|---|
| 1 | 伊勢竹河 | 160×26×15 | 七枚一束完存 |
| 2 | 伊勢竹河 | 150×24×14 | 八枚（？）一束 |
| 3 | 伊勢竹河 | 155×25×12 | 七枚（？）一束 |
| 4 | 伊勢竹河 | 146×27×10 | 六枚（？）一束 |
| 5 | 伊勢竹河 | 106×21.5×2 | No5～11まで同一束 |
| 6 | 伊勢竹河 | 148×19.5×1.5 | |
| 7 | 伊勢竹河 | 131×16.5×1 | |
| 8 | 伊勢竹河 | 155×15×3 | |
| 9 | 伊勢竹河 | 131×16×1 | |
| 10 | 伊勢竹河 | 149×18×2 | |
| 11 | 伊勢竹河 | 156×16×1 | |
| 12 | 伊勢竹河 | 93×20×2 | No12～17まで同一束 |
| 13 | 伊勢竹河 | 135×22×2 | |
| 14 | 伊勢竹河 | 117×22×2 | |
| 15 | 伊勢竹河 | 110×17.5×1.5 | |
| 16 | 伊勢竹河 | 91×21×2 | |
| 17 | 伊勢竹河 | 96×13×2 | |
| 18 | 伊勢竹河 | 89×20×1.5 | No18～20まで同一束 |
| 19 | 伊勢竹河 | 146×19×2.5 | |
| 20 | 伊勢竹河 | 155×17×1 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 21 | 伊勢竹河 | 135×16×1.5 | No21～22まで同一束 |
| 22 | 伊勢竹河 | 132×16×2 | |
| 23 | 伊勢竹河 | 152×18×2 | |
| 24 | 伊勢竹河 | 135×19×3 | |
| 25 | 伊勢竹河 | 95×13×2 | |
| 26 | 伊勢宗子 | 115×18×1.5 | 壺内 |
| 27 | 伊勢宗子 | 110×19×1 | 壺内 |
| 28 | 伊勢宗子 | 107×19×2 | 壺内 |
| 29 | 伊勢宗子 | 107×18×1.5 | 壺内 |
| 30 | 伊勢宗子 | 109×20×2 | 壺内 |
| 31 | 伊勢宗子 | 111×19×2.5 | 壺内 |
| 32 | （表）秦奈良子<br>又名粟日<br>（裏）伊勢宗子 | 105×18×2 | 壺内 |
| 33 | 秦奈良子<br>又名粟日 | 104×23×5 | 壺内 |
| 34 | 秦奈良子<br>又名粟日 | 111×19×1 | 壺内 |
| 35 | （表）秦奈良子<br>又名粟日<br>（裏）『□□小年不知□』 | 116×20×1.5 | 壺内　木簡転用 |
| 36 | 秦奈良子<br>又名粟日 | 109×14×1 | 壺内 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 37 | 秦奈良子<br>又名粟日 | 112×21×1 | 壺内 |
| 38 | 秦奈良子<br>又名粟日 | 104×11×1 | 壺内 |
| 39 | 秦奈良子<br>又名粟日 | 107×20×1 | 壺内 |
| 40 | 秦奈良子<br>又名粟日 | 99×13×2 | 壺内 |
| 41 | 秦奈良子<br>又名粟日 | 110×20×1 | 壺内　檜皮 |
| 42 | 秦奈良子<br>又名粟日 | (57)×11×1 | 壺内 |
| 43 | 秦奈良子<br>又名粟日 | (89)×16×2 | 壺内 |
| 44 | 秦奈良子<br>又名粟日 | 110×17×1 | 壺内 |
| 45 | 秦奈良子<br>又名粟日 | (75)×19×1 | 壺内 |
| 46 | 秦奈良子<br>又名粟日 | 113×18×2 | 壺内 |
| 47 | 秦奈良子<br>又名粟日 | 113×18×1 | 壺内 |
| 48 | (表)秦奈良子<br>又名粟日<br>(裏)『□今而今□』 | 112×15×1 | 壺内　木簡転用 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 49 | 秦奈良子<br>又名粟日 | (78)×16×2 | 壺内 |
| 50 | 伴廣富 | 98×13×2 | 壺内 |
| 51 | 伴廣富 | 109×18×1 | 壺内 |
| 52 | 伴廣富 | 112×17×2 | 壺内 |
| 53 | 伴廣富 | 110×18×1 | 壺内 |
| 54 | 伴廣富 | 112×17×2 | 壺内 |
| 55 | 伴廣富 | 116×18×2 | 壺内 |
| 56 | (表)伴廣富<br>(裏)□□ | 113×15×1 | 壺内　木簡転用 |
| 57 | 伴廣富 | 91×22×1 | 壺内 |
| 58 | 伴廣富 | 102×25×1.5 | 壺内 |
| 59 | 伴廣富 | 104×25×2 | 壺内 |
| 60 | 伴廣富 | 101×25×2 | 壺内 |
| 61 | 伴廣富 | 86×25×2 | 壺内 |
| 62 | 伴廣富 | 95×21×1 | 壺内 |
| 63 | 秦奈良子<br>又名粟日 | 123×24×1 | 壺内　檜皮 |
| 64 | □□ | 108×23×0.5 | 壺内　檜皮 |
| 65 | □□ | (104)×(16)×0.5 | 壺内　檜皮 |

バラつきがあるが、全体的に壺内のものより長い。

(4)～(6)は壺内に入れられていた人形で、三人の名前が書かれている。(4)の伊勢宗子が六枚以上、(5)の秦奈良子が一七枚以上、(6)の伴廣冨が一三枚以上あり、秦奈良子と伊勢宗子が表裏に書かれているものが一点ある。(3)のタイプに比べて短く、頭部は角を切り取っており、顔の表現は女性と考えられる。

これらの人形は、同一名の人形ごとに筆跡が同じと判断され、材には木簡を再利用したものや、檜皮を用いたものも認められる。

今回出土した人形は縛られたり、木釘が打たれたりしているが、これはあくまで束ねるための行為とみられる。これらの人形は、祓もしくは病気平癒に使用され、その後一括してこの井戸に廃棄されたものであろう。その時祭祀の主たる戸主と家人とで廃棄のされ方が区別されたとも考えられる。

なお墨書のある石は、珪岩の亜角礫の表面や節理面に、「嘉祥」「□／元年」「□□」、及び「□□□□（大カ）／□□□（水カ）」「□」（上面）と書いたものである。上から一三段目から出土。

釈読については、奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部史料調査室のご教示を得た。

（松浦五輪美・原田香織）